廣徳寺大御堂（比企郡川島町）

こうとくじ　おおみどう

真言宗豊山派大御山西福院廣徳寺とある

仁王門

左手前方が大御堂

廣徳寺 大御堂

国指定
重要文化財
廣徳寺大御堂
所在地　比企郡川島町大字表七六
廣徳寺大御堂は鎌倉時代の初め、北条政子が美尾屋十郎廣徳の冥福を祈って本堂及び坊舎とともに建立したものと伝えられている。現存の大御堂は様式手法から、前代の建物の規模や形式を踏襲して室町時代後期に再建したものとみなされる。
構造及び形式
桁行三間、梁間三間、一重寄棟造、茅葺、頭貫、木鼻の絵様繰形等に地方的な特色を見せる、関東地方には数少ない禅宗様の仏堂として貴重な遺構である。
昭和十三年七月四日付で国宝保存法による指定を受けその後昭和二十五年八月二十九日付で文化財保護法により国の重要文化財となり、今日に至っている。
大御堂内には、現在中央須弥壇上に本尊阿弥陀如来坐像を中央に観音、勢至菩薩立像の両脇侍を安置し、さらに堂内の東北及び西北隅には小壇を設け、不動明王、毘沙門天の各立像を安置している。
昭和六十二年六月
埼玉県教育委員会
川島町教育委員会
廣徳寺
川島町文化財保護審議会　会長　小高一郎
川島町教育委員会　教育長　神山孝一　書

重要文化財 大御堂とある

鎌倉時代初め、北条政子が美尾屋十郎廣徳の冥福を祈って建立したと伝えられる/室町時代後期再建

頭貫、木鼻の絵様繰形等に地方的な特色を見せる、関東地方には数少ない禅宗様の仏堂として貴重な遺構という

廣徳寺 並 大御堂

當寺は大御山西福院と号し 新義真言宗豊山派に属している
古くは三河國誕生院末であったが 元禄時代に江戸大塚の護持院末となり
更に護國寺末となった
寺傳を見るに當寺は正保・享保両度の火災に罹り大御堂 仁王門を除き
本堂及び坊舎は盡く灰燼に帰し往古の諸記録は傳わらないが隅々當時の災厄に
遭遇した住僧 舜韶が先師以前の記録の一端書を遺し後日を補充したのである
その記によれば當寺は平城天皇の御代大同年間の創立にして鎌倉時代に至り
漸く衰頽の傾向を来した頃當郷を食邑した頼朝の驍将美尾屋十郎廣徳の
菩提所なるを以って夫人二位の尼公が主となり大御堂及び本堂坊舎の数棟
を再建せられ廣徳寺と稱して 廣徳の冥福を祈ったのである
その後天正十九年家康が當地方に放鷹の途次大御堂の縁故を問われ 爲に
寺領五石の御朱印を下附され永く祭冥とし給うと言う

大御堂は
建立年代明らかでないが室町時代初期に上り得るものがあり 比較的
数尠い関東地方に於ける唐様佛堂遺構として重要であるとの理由で
昭和十三年七月四日當時の國寶 現在の重要文化財に指定された
内陣には中央須彌壇上に本尊阿彌陀如来坐像を中心に
右觀世音菩薩 左勢至菩薩の立像を安置し後方左右の隅に小壇を設け
不動明王 毘沙門天の立像が安置されている
この大御堂の構造形式内陣の彫刻については「廣徳寺要録」中に
文化財保護委員 藤島亥治郎博士 文部技官 水野敬三郎先生の詳細な
解説が記載されている

さて、さまざまな石造物もある

左手の石碑には「美尾屋十郎廣徳之碑」とある

大御堂復元記念碑

広徳寺大御堂は、方三間寄棟造茅葺の御堂で、関東地方における唐様仏堂の最少ない遺構として重要なものである。昭和十三年七月四日国宝に、昭和二十五年八月二十九日、現在の重要文化財に指定された建物である。堂内には、仏頭が付け変えられたという伝説のある阿弥陀如来（平安期の作）を中心に観音勢至二菩薩、後方右に不動明王、左に毘沙門天の五仏が安置されている。これは、鎌倉時代の武将好んで崇拝した仏像配置で、一般に願成就院形式と呼ばれている。後方の台地には、平家物語、曽我物語、馬鈴等に当山に秘蔵されている、有名な美尾屋十郎広徳の墓がある。発掘された直刀、銅鏡、馬具等は、浄土信仰の盛んであった平安末期より鎌倉期にかけて用いられた阿弥陀堂の通称である。当寺の大御堂は十二世紀美尾屋氏の建立であるが、時代の変遷と共に崩壊甚しく、二位の尼公政子の時、広徳の武功を偲び、広徳の菩提所である本堂及び大御堂等数棟が十郎広徳の武功を偲び、広徳寺と称して冥福を祈ったと寺伝に記されている。

と再建し、広徳寺と称して冥福を祈ったと寺伝に記されている。

宅公再建以来幾多の洪水災害に会ったが、延宝、享保と大修理の手が加えられ、昭和の御代まで約五百年の間、その姿を残し得たことは、仏の加護と篤信檀徒の護寺芳志の賜と深く信じている。

さて、大御堂解体復元工事は、文化庁指導のもとに、護寺会会員の拠出金と国、県、村の補助金を得て、総工費一四五〇万円をもって、昭和四十五年四月一日着工、同四十六年六月完成、大雄院殿勇猛残夢大居士の菩提を葬うと共に、堂宇建築の完全復元の成就を見るに至ったのである。

ここに、落慶記念碑を建立、この大工事を後世に残すと共に、工事関係者、護寺会会員各位に万腔の敬意を捧げる。

昭和四十六年六月二十九日　広徳寺三十五世　文雄　撰

新宮吉

工事関係者芳名

工事監督文部技官服部文雄
仮設物建設川島村島村治作
木材納入奈良市材辰巨材(株)
防波工事横浜市木材佛材センター
屋根工事岡山県兒島工務店
佛像修理坂戸町斉藤佛師店
消火栓工事川島村石黒設備
石材工事兒玉町伊藤石材店
防災工事東京都二ツ谷株式会社
外構工事川島村田島製作所
大工棟梁川島村相原藤吉
人夫頭川島村深谷伊吉
左官川島村馬場達治

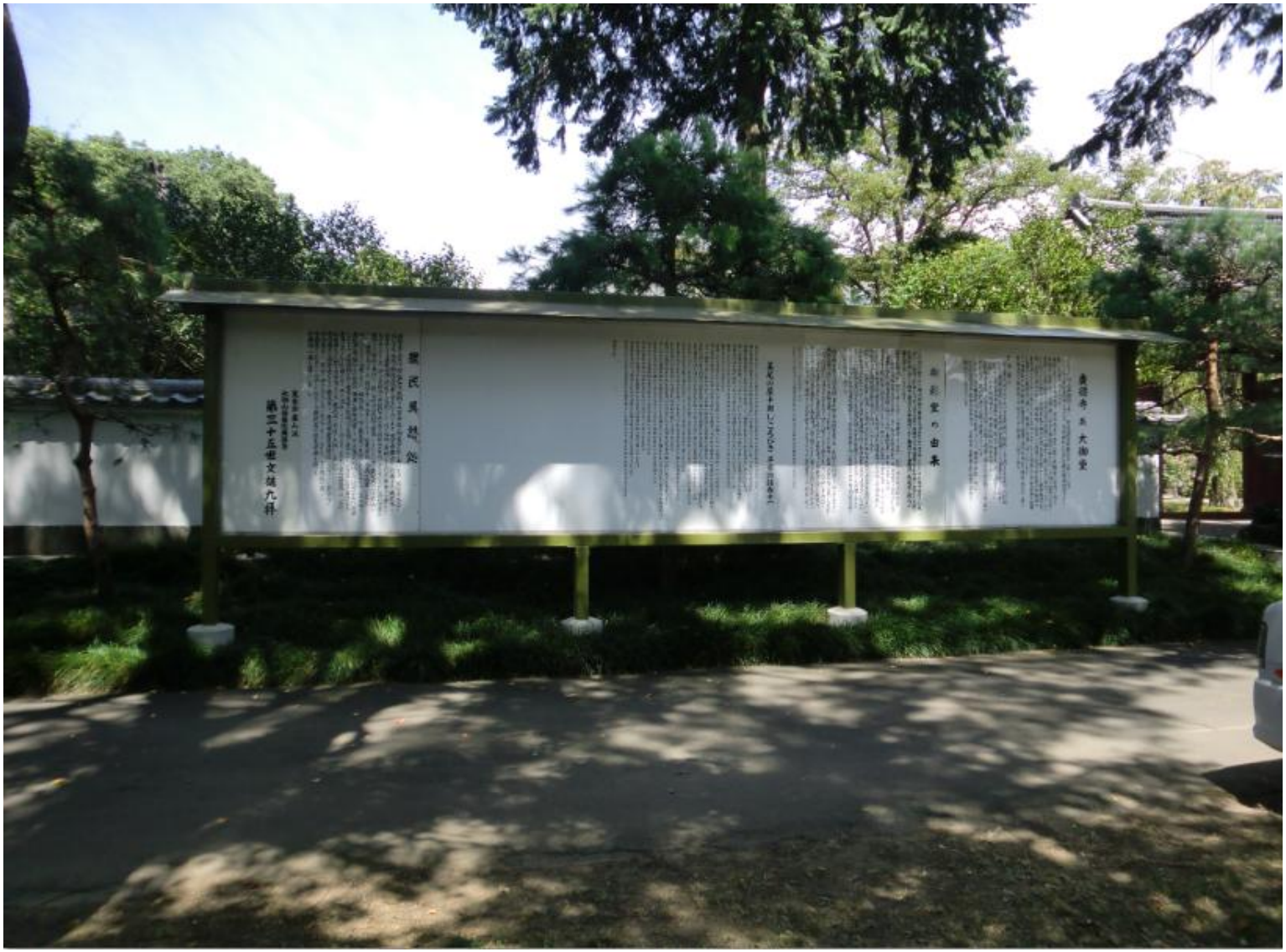
修理委員芳名

顧問 埼玉県知事 栗原浩
仝 教育長 中谷幸次郎
仝 衆議員議員 山口敏夫

当地の館主であった美尾屋十郎廣徳の末裔が廣徳を偲び江戸時代中期に詠んだ歌が刻まれている

明和七庚寅年卯月
其尾屋十郎廣德妻
江戸鈴木三右衛門妻三保子

他にもさまざまな石造物があった


東福寺の大御堂
開祖堂の由来
聖一国師
第二十五世文雄九拝

納 妻

1648年建立の御影堂/昭和59年に大改修している

御影堂

御影堂の由来

この御影堂は江戸時代初期の慶安元戊子年(一六四八年)に江戸日本橋伊勢町の元祖鈴木三右衛門が願主となり牛ヶ谷戸出身の両親および弟図書の追善供養と自分たち夫婦の後世安楽を願って鈴木一家代々の菩提所であり墓所のある由緒深い廣徳寺の境内に建立寄進したものである。

建物は三間四面で桧材を用い茅葺の入母屋造である堂内に、弘法・興教両大師尊影二体と中央に薬師如来立像が安置してあり弘法大師尊影一体 三右衛門の両親御影二体弟図書の御影一体自分夫婦二体つごう六体を奉納安置し苹蔓十二枚を寄進した

その後年を経て影像の損傷が見られるに及び時あたかも三右衛門の五十年遠忌に当る享保七壬寅年(一七三二年)孫三代目三右衛門が大師像一体先祖像五体つごう六体を修補再興し

同年十月十三日開眼供養の儀式を執行したのである。

以来二百六十年余の星霜を経過しこの間明治十六年宗祖弘法大師の(一千五十年遠忌にさいし堂宇尊影の修復がなされているが昨年堂の建物は朽ち堂内安置の尊影は色あせいたみを生じたため昭和五十九年(九四年)十月弘法大師(一千百五十年遠忌にちなみ堂宇の大修理を行うと共に東京都曽孫鈴木仙造氏施主となり尊像の修復を行い昭和六十一年五月開眼法要を営み仏の冥福を祈った。

「御影堂ト鈴木家トハ源義経ノ重臣鈴木三郎重家ガ主・義経ガ兄頼朝トノ仲ガ不和トナリ奥州平泉ヘ逃レシタメ義経追慕ノタメ熊野ヲイデテ田木ノ舎田(現東松山市)ニ至リシニ大雨ノタメ河川氾濫シ川ヲ渡ルコトカデキズコノ地ニ逗留シ一子ヲ儲シガモトヨリ元ヲ期シテノ奥州ノ旅路ニツキ子供ヲ連テ出立テキズ重家困惑シ友人テアル美尾谷(屋)十郎廣徳ト語イテ廣徳ニハ子ガナク其ノ子ヲ哀レニ思ヒ養子トナシ美尾谷(屋)ノ姓ヲ継ガシメタト傳ヘラレル然シ乍ラ其ノ子孫ハ三代マテ美尾谷(屋)ノ姓ヲ継承セシガ元来鈴木氏ノ子孫デアルノデ四代目ヨリ元ノ鈴木ノ姓ニ改メタトユウ(雨夜物語)ヨリ

これにより廣徳寺の大檀那美尾谷(屋)の姓はきえ鈴木氏の姓が現存するのである。

ここは廣徳寺近くの熊野神社

ここにもさまざまな石造物がある

参考ホームページ

http://www.knet.ne.jp/~ats/t/jinja/t3/kotoku.htm

インターネットより